

分かる快感！

# Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

しろ けん せつ けい ざい はつ てん  
城の建設が経済の発展に

は やく わり  
果たした役割とは？

(東京大学 2011年 日本史)

「Z会ナビ」が  
Webサイト  
でも読めます！



Z会おとナビ新聞 検索

これまでの内容も掲載しています！

17世紀前半、江戸幕府は各藩に、江戸城や大坂城等の普請（建設の協力）を命じました。それに関する次の文章を読んで、城普請が江戸時代の経済の発展にどのような影響を与えたか、説明しなさい。

(1) 城普請では、それぞれの藩に石垣や堀の普請が割り当てられた。

(2) 城普請の中心は石垣普請であった。城のある場所から遠く離れた場所で巨大な石が切り出され、陸運や水運で運ばれ、綿密な計算に基づいて積み上げられた。これには石積みの専門家に加え、様々な技術を持つ人々が動員された。

(3) 城普請に参加したある藩の家臣が、山から切り出した巨石を、川の水流をたくみに調節しながら浜辺まで運んだ。これを見て、ほかの藩の人々もこの技術を取り入れた。この家臣は、藩内の各所の治水等にも成果をあげていた。



イラスト・瑞木匠

ことでした。築城への協力が主君への忠誠を表したため、「たしかに協力した」という証しが重要だったのです。

## 城普請の効果

城普請は大規模な公共事業でした。大きな石を山から切り出し、運搬し、測量して石を加工し、積み上げる。(2)を読むと、その各工程に専門家がいたことがわかります。また、石を運ぶために陸運・水運の交通網が整備されました。普請によって大規模工事の技術が向上し、また、全国規模の物流の基礎が作られたのです。

城普請で向上した土木技術は、(3)にあるように治水や新田開発に活用され、農作物の生産向上につながりました。そして各地で生産された作物は、石を運ぶために開発された陸運・水運を使って江戸や大坂に運ばれたのです。江戸時代前半期の経済発展は、城普請による技術の向上や、城普請のために整備された流通網によって支えられていたのです。【Z会・河原井彩】

## 石垣に注目

石に丸や四角などの記号や文字が彫られていることに気付いた人もいるかもしれませんね。これは、普請を担当した大名が、自らが積んだ石であることを示すための印だと考えられています。

鎌倉幕府や室町幕府といった武士の政権では、家臣は戦の際に主君の軍で戦うことで、主君への忠誠を示していました。戦が終わり、平和な世となった江戸時代には、将軍への忠誠を戦で示すことができなくなりました。そこで江戸時代前半に行われたのが、城普請で主従関係を示す

### ！今回の教訓

現在、江戸時代以前の姿で天守が残っている城は全国でも12のみですが、復元された城でも石垣は古くからの姿で残っている場合もあります。城を見る際にはぜひ石垣にも注目して見てください。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。

「普請」とはなかなか聞きなれない言葉ですが、建築工事の協力を得ることを言います。今回は、江戸時代の普請が経済にどのような役割を果たしたのか、考えていきましょう。

### 忠誠心を表すための普請

みなさんは城の石垣を見たことがありますか。さまざまな大きさの石が隙間なく積み上げられて